

## 会議議事録

会議名	2023年度第1回看護分野教育課程編成委員会
開催日時	2023年7月18日(火) 15:00~17:00
場 所	Zoom 開催
出席者 (敬称略)	①企業等委員：大沼扶久子(公益社団法人東京都看護協会西部地区理事)、小林映子(社会医療法人河北医療財団河北総合病院看護部長)(計2名) ②本校委員：川口拓也(校長)、伊東由美(看護課学科長)、榊原幸之(事務局長)、岡本隆行(看護科教員)、渡邊明子(看護科教員)(計5名) ③事務局：安里良美(計1名)  (合計8名)
欠席者	なし
配付資料	①事前送付：資料1：2022年度第2回看護分野教育課程編成委員会議事録 資料2-1：前回委員会以降の主な経過報告(在籍状況・退学状況・就職状況) 資料2-2：主な内定先(各課程共通) 資料2-3：第112回看護師国家試験結果 資料3：2023年度カリキュラム表 資料4：2023年度授業計画 資料5：2023年度実習計画 資料6：キャリアデザインⅡ シラバス 資料7：キャリアデザインⅡ 授業計画 資料8：キャリアデザインⅡ 具体的計画
議 長	伊東学科長
議題等	<p>1. 校長挨拶 川口校長より、4月から校長に就任した。日頃から本校の教育にご理解とご協力をいただいていることに感謝申し上げる。 教育課程編成委員会は、専門学校の質を保証するため、外部の意見を酌み取って教育課程を編成し、PDCAを回す上で不可欠なものである。 コロナ禍の3年間は、先生方も学生も大変な思いをして活動してきたが、コロナが明けた後は入ってくる高校生の気質が変わり、コミュニケーション的に積極性が欠けている傾向がある。本校のディプロマは、看護師免許を取ることが目標ではなく、実務者として社会で活躍できる自立した職業人になることだと思っているので、ぜひその観点からご意見を頂戴したい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(資料1) 委員長より前回議事録(案)について諮ったところ、特段の意見はなく、個人情報に配慮した上で保存・公開することが確認された。</p> <p>3. 前回委員会以降の主な経過報告(資料2-1・2-2・2-3) 担当者より資料2-1から2-3に基づき説明が行われ、確認、了承された。補足説明の詳細は別紙のとおり。</p> <p>4. 2023年度の活動報告 ①新規科目の履修状況について(資料3) ②2023年度授業計画および実習状況について(資料4・5) 各担当者より資料3および資料4・5に基づき説明が行われ、確認、了承された。補足説明の詳細は別紙のとおり。</p> <p>5. 2023年度の教育活動と学科運営について ①キャリアデザインⅡ進捗状況(資料6・7・8) 学科長より、資料6・7・8に基づき説明が行われ、確認、了承された。説明・質疑・意見の詳細は別紙のとおり。</p> <p>6. 次回日程、その他</p>

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・2023年度第2回委員会</li><li>①2023年度の教育活動と学科運営の報告</li><li>②2024年度カリキュラム案へのご意見伺い 他</li></ul> <p>予定している議題は上記①と②であることが確認、了承された。</p> |
|---|

以上

## 2023 年度第 1 回看護分野教育課程編成委員会の主な討議内容

### 3. 前回委員会以降の主な経過報告

- 榊原事務局長より、補足説明があった。(資料 2-1・2-2)
- 伊東学科長より、第 112 回看護師国家試験について報告があった。(資料 2-3)

### 4. 2023 年度の活動報告

#### ①新規科目の履修状況について (資料 3)

- 伊東学科長より、資料 3 に基づき以下の説明が行われた。
  - ・黄色いマーカーで示しているのは、去年から始まった新カリキュラムで履修する科目となる。
  - ・「病態生理と治療 (感覚器)」は、国家試験の出題増を考慮して耳鼻科の授業を 1 つ加えた。
  - ・「臨床放射線医学」は新規科目で、講義時間 15 時間、回数は 7 回となる。放射線技師の先生に、核医学などを含めて講義をしていただいている。
  - ・「地域・在宅看護論」の中の「地域・在宅医療と多職種連携」は、地域・在宅の科目が新カリから 6 単位に増えたこともあり、新しく加えている。理学療法士による講義が 9 月頃に始まる予定。
  - ・「小児看護学」の中に「小児のアセスメントと看護」がある。今までは「小児の健康状態に応じた看護」の中でアセスメントを含めた講義をしていたが、新たに加えた。
  - ・「看護の統合と実践」の中の「キャリアデザインⅡ」は、今まで主に時間外で組んでいたものを授業内に収めて進めている。

#### ②2023 年度授業計画および実習状況について (資料 4・5)

- 岡本教員より、資料 4 に基づき以下の説明が行われた。
  - ・今年度は 1・2 年生が新カリキュラム、3 年生は旧カリキュラムで運営している。一部並行しているため、学生にカリキュラムを提示する際は、表示の仕方を工夫している。
  - ・3 年生の臨地実習の学内日を水曜から金曜日に変更した。それに伴い、看護科の常勤職員の授業も可能な限り金曜日に組み入れるよう調整しているが、外部講師の授業希望日を優先せざるを得ないため、1 年生の後期は授業枠がほぼ満杯な状況にある。
  - ・旧カリキュラムで未修得単位がある場合、新カリキュラムに対応する科目名称が異なることもある。全学年の単位取得状況を一通り把握した上で授業計画を組まねばならず、相当神経を使う作業になっている。
  - ・1 日授業が空きそうな箇所は学生目線で最大限配慮し、カリキュラムを調整している。
- 渡邊教員より、資料 5 に基づき以下の説明が行われた。
  - ・今年度より人数制限がなくなり、多くの方のご協力の下、感染対策をしながら実習を開始している。(1 年生)
  - ・7 月下旬の「地域・在宅看護論実習Ⅰ」から始まる。今までは「基礎看護学実習Ⅰ」が全ての実習の始まりだったが、新カリキュラムになり、まずは地域に暮らす対象の看護と理解ということで、地域包括支援センター等を実習に行かせていただいている。
  - ・10 月上旬に始まる「基礎看護学実習Ⅰ」は、療養環境について学ぶほか、入院している対象の思いを聞いたり、行われている看護の見学や一部看護の実践もさせていただき、貴重な実習となっている。

- ・1月下旬に始まる「基礎看護学実習Ⅱ」は、対象のニーズの充足に向けて、日常生活援助を安全・安楽に実施することを目的に1単位の実習に伺っている。

(2年生)

- ・6月中旬から「基礎看護学実習Ⅲ」が始まる。今までは1単位の実習だったが、計画だけでなく、きちんと看護を実践して評価まで至ることを目的に2単位の実習に変えた。
- ・11月に「成人・老年看護学実習Ⅰ」が1単位ある。名称に「成人」が入っているが、今までと同じく老年の看護実習となる。加齢に伴う生活への影響や高齢者看護を理解することを目的としている。
- ・2月に2種類の実習が重なっている。一つは「成人・老年看護学実習Ⅱ」で、成人期を迎えた人々の健康増進・疾病予防のための看護の役割を理解することを目的としている。もう一つは「精神看護学実習Ⅰ・Ⅱ」で、精神障害を持つ対象を理解することを目的に、適切な看護ができる知識・技術・態度を学ぶものである。

(3年生)

- ・旧カリキュラムに沿って5月からそれぞれの実習がスタートし、夏休みを挟んで主に3領域の実習が終わった後、最終的に総合実習が行われる。

○伊東学科長より、以下の補足説明が行われた。

- ・3年生の在宅実習は、7月は1年生の実習と重なることから、今年から5月にスタートする形に変更した。

## 5. 2023年度の教育活動と学科運営について

①キャリアデザインⅡ進捗状況（資料6・7・8）

○伊東学科長より、以下の説明が行われた。

- ・資料6はシラバスである。「キャリアデザインⅡ」は2年生が履修する科目になる。2年生は中間学年なので学校にも慣れ、勉強も大変になり、少し中だるみするような学年でもある。そこで新たに目標を見いだすことを到達目標に位置づけて進めている。
- ・主な改善点としては、戴帽式の取組を変えることと、多職種との連携を学生のうちに学べる機会をつくることで、具体的には5回目と7回目の授業で取り組むこととしている。
- ・資料7は、シラバスに書かれている授業内容を進める年間スケジュールを示している。9月20日の5回目の授業は「看護観教育」という、戴帽式の代わりに導入する内容のオリエンテーションとして進めていく。
- ・資料8には、5回目と7回目の授業の進め方を詳細に記載してある。
- ・4回目の7月5日は「基礎看護学実習Ⅲ」が終わったばかりで、実習経験が鮮明に残っている時期なので、それを基に看護観を書いてみようということで取り組んでいる。
- ・今までは3年次の卒業までに書き上げていたが、3年間の中間点においてどういう看護観を持っているかを確認できれば、自分の振り返りにもなる。上級生と下級生と一緒に交流しながら発表会をしようと思っている。
- ・7回目は介護福祉科との協働学習を実施する。具体的には、食事介護の場面を想定し、嚥下が難しい患者さんに対して、医療者としてのアプローチと介護者としてのアプローチを併せて行うことを考えている。

○主な質問・意見等

質問・意見等	回答等
<p>「キャリアデザインⅡ」は、他学科との協働学習という点で早稲田速記医療福祉専門学校の特徴が出ている。さらに他学科に広げていければ、卒業後の実践場面が広がるほか、校長先生が言われた実務者として社会に貢献できる人材育成にもつながると思う。</p> <p>私も非常に興味深い科目だと思う。授業到達目標の中の「コミュニケーションをとりながら対象と協調できる」は、今の学生が苦手としている部分であり、「対象主体の倫理を考えられる」についても実際には難しい。どのような仕組みをつくられたのかを教えていただきたい。</p>	<p>来年度、「キャリアデザインⅢ」ということでもう1段階ある。保険点数なども授業に取り入れられるとよいかと思う。</p> <p>今の学生は、きちんと伝えることが苦手な人が多い。実習先で違う年代の人にどう声をかけていいか悩み、そこで患者さんの背景を知ることの重要性、自分の気持ちだけでは伝わらないことに気づく。また、指導者とのやり取りを通して、看護師の役割、伝えること責任を経験の中から学んでいるが、繰り返し取り組まないとコミュニケーション力は身につかないと思う。</p> <p>倫理については、看護観の中で触れることができるかと思う。実習先での経験を深めて、倫理観を育てていきたい。</p> <p>キャリアデザインはいろいろな教員が関わっており、それぞれの教育観も交えながら学生を育てている科目だと言える。学生が主体的、積極的に授業に参加しているのも特徴で、学生間で意見交換をしながら、対象主体の考え方を育てたい。倫理を追求していくことは難しい作業であり、「キャリアデザインⅡ」は、客観と主観を交えながら、心を込めて向き合っていくことを培っていけるものと思っている。</p>

以上